

村だよい

DEWA SHONAI INTERNATIONAL FORUM

dewa shonai



1/14 国際村の「日本のお正月」で熱演の常念寺保育園児のみなさん



特集 地域リーダー国際化セミナー

アロハ出羽庄内「ダニエル カウエ」さん

国際交流団体紹介 タオライの会、国際ソロプチミスト鶴岡

出羽庄内国際交流財団会報

vol. 24

Quarterly



アマゾン民族館

開館時間 9:00~17:00

第2・4土曜日は、小・中学生入館無料!

ニューカレドニアを中心とした
南太平洋展

好評開催中

地域がからの国際交流

国際ボランティア活動を考える

もう一度考えよう 国際協力のあり方

平成12年11月11日、出羽庄内国際村で「地域リーダー国際化セミナー」が行われました。このセミナーでは、愛知淑徳大学教授の榎田勝利氏による基調講演と、全国各地で国際交流、ボランティア活動に活躍されている方々を招いてのパネルディスカッションを開催。参加者も普段聞くことのできない貴重なお話を耳を傾けていました。今回は、榎田先生の基調講演から主な内容を抜粋し皆様にお知らせします。

数年前から「国際交流から国際協力へ」というキャッチフレーズがでるようになってきました。わたしはこれを間違いだと言ったんです。誤解しちゃっているんですね。各市町村に行くところ、自治省が国際交流から国際協力だと言っている。だから、今までやってきた国際交流はだめなんだ、もつとアジアとかアセアン諸国とか発展途上国の国際協力をやらないといけない」というんです。そうして、各市町村が一生懸命に発展途上国に物資を送ったり、廃品回収等をして何かをやったり、という動きになってきている。

すると、日本の若者たちを中心にして援助活動、国際協力するという形、いわゆる「緊急援助型」の国際協力が行われた。相互に理解してからではなくて、まず援助が必要な国に出かけて行って協力してきたのです。でも、今必要となつてきているのは、いきなり協力ということではなく、交流し相互理解を踏まえた上での協力なんです。せつかく、わたしたちは三十年前から地道に国際交流、相互理解を深めるように交流してきました。相手の国の人たちと一緒に、交流を通して相互理解や友好親善を深めてきた。その上で必要となるのが初めて「協力」なんです。

わたしが住んでいるのは名古屋なんです。名古屋はロスアンゼルスとメキシコシティと姉妹都市なんです。例えば、ロスアンゼルスもメキシコシティも、環境問題とか公害問題とかが地域の課題であるとしたら、そういう地域課題を解決するための共同活動、共同作業をするような交流に展開させていく。お互いに持つているもので、支援し合い、協力し合う関係、そういう関係にもつていく必要があるのではないだろうか。それは、わたしたちの日常的な国際交流の中から、友好親善の次にくる「課題解決型」、つまりテーマを持つて交流をするということなんです。

若い世代は若い世代同士、将来の就職の問題とか、生き方の問題でもいい、お互いに対話をしながら、世界の若者たちが共有できる課題を一緒に見つけながら共同作業をしていく。そういう意味での「交流から協力へ」というのは、わたしは大いに理解できます。

今はもつとその時期になつていきます。国がやる以上に、地域がもつと自立的、そして直接的にやったほうが、どれだけきめ細かくて顔が見える関係ができることか。地域や人間同士が、お互いに国境を越えた形で活動を展開する、そこに重要な意味があると思います。

場、人づくり そしてバイブづくり

ここ庄内での活動を振り返ってみると「庄内国際青年隊」というのは、いろいろなモデルになりうる活動だと思います。というのは、わたしは名古屋という都市に住んでいて国際交流をやっています。東京や大阪にも同じことが言えますが、そういう都市型の国際交流から地域を見ることができないと思うんです。地方都市とか農村型の国際交流は、どちらかというと受け入れる国際交流でした。この交流を活発に行つた典型的な事例が南北海道国際交流センターとか、鹿児島島の「たらいも交流」

です。特に「たらいも交流」は留学生たちを自分たちの農村に呼んでホームステイをさせるということから始まり、現在では国連や外務省からも支援を受けるような大きなNGOに育っています。今、わたしたちはその意味を考える必要があるのではないのでしょうか。

十五年間続いた「青年際」で、経験したその蓄積は、ある意味で、この地域の財産となつていくのです。大きいのは、何千人という留学生がこの地域を訪れ、そして、受け入れた市民や地域全体が、それぞれの留学生と個人的なネットワークを持ってい



▶セミナーは終始なごやかな雰囲気で行われ、参加者からも活発な意見が出されました。

る。しかし、皆さんはそれぞれ組織的に、地域的に、そういう留学生にフォロワーアップしているのでしょうか。

「青年際」に参加した留学生は、貴重な庄内の宣伝マンとして各国に散らばっているわけです。その人たちをどうフォロワーアップするかというのは、すごく大切なことですよ。世界各国に、姉妹都市ならぬ人という拠点があるんだから。その人たちと交流を深めたら、もつといろいろなことができるじゃないですか。いわゆる、みんなが一人ひとり民間大使なんです。鶴岡、庄内民間大使が世界各国にいと発想したら、もつとグローバルなことができるのではないのでしょうか。

「青年際」を始めたことで、庄内に新しい風が吹き込まれたわけですよ。留学生が持っている様々な異文化という風を、この地域に吹き込んでくれた。それによって地域は、活性化し変化し始めたんです。そして、地域の人たちそれぞれの思いや生き方、ものの考え方をよりグローバルな視点に立って見ることでできるよつにしてくれた、そんな国際化が進んできたわけですよ。

これから、ぜひ皆さんにやつ

ていただきたいことがあるんです。それは、国際化、国際交流を手段にして、地域を活性化しよう、国際感覚のある人材を育成しよう、という意味での国際化から一歩進めて、その経験や財産を生かしながら、世界のあるいは世界の地域の国際化にだけだけかかわっていきけるか、ということを考えていくということなんです。

そのためのパイプはもう十分多様にできているわけですよ。それだけ皆さんは経験を積まれている。その経験を生かして、わたしたちが得た感動とか体験を、世界の人たちにも同じように体験してもらったらどうでしょう。そして、地域がもつとつと変化していければいいと思います。

全国、世界各地には、過疎で困っている町や村がいっぱいあるんですが、同じように国際化を手段にして、町が活性化しています。いわゆる、「村おこし」事業になつていっているんです。

一番大事なことは、このことに気付くということなんです。過疎で、何も無い町や村、若者はそんな村に飽き足らず、都会に出てしまつて。でも、外国から人が来る。ホームステイで、一週間村の家庭に泊まつて、村

の自然や環境、伝統文化や芸能とかに感動しちゃうんです。そうすると、今まで村の人たちが忘れてかけていた村の特性とかすばらしい文化とかを、外国の人たちが教えてくれるんです。そう、地域に誇りが持てるように気付かせてくれるんですよ。

国際交流と言つのは、そういう大きな魅力がある。こんな体験を子供の頃からどんどんやつたらいいと思います。塾に十万円を使つたら、国際交流に十万円を使つたほうが子供の将来にどれだけいいことか、とわたしは思います。

国際化の大きな流れは、庄内に貴重な財産をもたらしてくれました。この財産には三つのキーワードがあります。

一つ目は「青年際」を行うことで、外国の人と触れ合う機会いわゆる場ができたのです。その場作りも、最初は市民が草の根でやつたんですよ。そしてその何年後かには、二市十二町村にまで広がつていった。民間の活動が、それだけ広域的に広がるつていのは、全国でもあまりないんですよ。行政つていのは行政域があつて、その域を越えられないですよ。それが庄内全域にまで広がつていった。すごい大きな動きですよ。

二つ目は、その場を作ることによつて、かかわつた若者たちが今はみんな成人した。いわゆる十五年間にいっぱい人が育つたということですよ。そういう人づくりをしてきたんですよ。

そして三つ目は、それぞれの人が世界の人たちとか、国内のいろいろな地域の人たちとパイプを作つてきたということですよ。人づくりに基づいた、パイプづくりなんです。

これは、なかなか見えないことですよ。でも、いろいろなことをやるときに、そういう経験の蓄積こそが、地域をもつと活性化すると思つたんです。

これから、皆さんはもつとこの地域の国際化を推進させていくかと思つていますが、皆さまのこの地域の活動に誇りと自信を持ち、より新しい発想を加えながらやつていただきたいと思つています。そして、ぜひ市民の活動をみんなで支えるような形になつてほしい。できれば、若い人たちがそういう団体で、給料をもらつて活動できるようになつたらもつといいと思つていますね。

短い間でしたが、皆さんに何か伝わるものがありましたら、わたしはそれで満足です。どうもありがとうございました。



お顔がたくさん。大勢の参加者でにぎわったハロウィン・ランタン作り。



魚といっしょに、ハイポーズ。管内施設見学会&交流会



子供たちの笑顔が友好的のシンボルボンジュール・ラフォア。



入賞おめでとう。小学生英語スピーチコンテスト

ハロウィンランタン作り

毎年恒例の行事ではありませんが、十月一日はひとあじ違いましたよ！。なにしろ国際村ランタン作り始まって以来、史上最高の参加者で大にぎわい。講師のフィル先生だけでは大変と、ALITのみなさんにもお手伝いをしていただき、アイディアいっぱい、個性豊かな顔ぶれが勢ぞろいしました。

ハロウィンのお話に引き続き、さっそく開始。ナイフを持つ手がどうもおぼつかない子供たちが、積極的に声を掛け合い友達や、積極的に声を掛け合い友達の輪が広がり、隣の家族、そのまた隣のこども達へと、どんどん広がります。



「すいません、ちょっとここをお願いします」なんていう声は自然に掛け合えるようになった頃には、ランタンにも目・鼻・口が入り、それらしく見えます。

「それではランタンを持って集合！」の声とともに、おぼけかぼちゃを大事そうに抱きかかえ、大移動。

明かりのともったランタンは、それぞれに違う表情で揺れていました。

来年度は、初心にかえり、もっと楽しいハロウィンを企画して皆様をお待ちしています♥

ボンジュール・ラフォア

鶴岡市の友好都市、天国に一番近い島として有名なニューカレドニア・ラフ



オア市から、小学生訪問団一行三二名が鶴岡市を訪れました。訪問期間中の十月二八日、出羽庄内国際村でも「ボンジュールラフォア」と銘打ち盛大に歓迎行事を開催。

始めに、友好の証として現地の人たちから建てていただいた「カズ（儀礼の館）」の前で、訪問団の方々による伝統的な入村の儀式が行われました。建物に入るための許可を求める入村の儀式。厳粛な儀式も、この日だけは和やかな雰囲気が進められ



ました。儀式が終わると踊りながら国際村に移動。訪問団の子供たちが、特別展示「ニューカレドニアと南太平洋展」の展示物となつている、美しい貝殻や珊瑚などを紹介したり、参加者と一緒に見学したりして交流を深めました。

最後は、訪問団の団長フィリップ・ロンバルド氏が、現地で撮影したスライドの大映写会。観光地として世界でも有名なニューカレドニアや、ラフォア市の美しい珊瑚礁などの自然や文化に、参加者一同すっかり魅せられてしまいました。

出羽庄内国際村が、南の島ニューカレドニア「一色に染まった一日。訪問団は来鶴中、市内の小学校を学校訪問したり、ホームステイをしたりして、鶴岡を楽しみました。



小学生スピーチコンテスト

英語を学ぶのも大切ですが、英語を楽しむのもっとする心はもっと大切な事。



十月二十九日に行われたコンテストでは、ジェスチャーを加えながら、明るく元気に発表してくれた子供たちもいて、ピンと張り詰めていた雰囲気と和やかに、英語を楽しむ心が戻ってきた一瞬でした。

管内施設見学会&交流会

十一月二三日、庄内に住む外国人の方々を対象に、管内施設見学会が開催されました。

今年の見学場所は、荘内病院と加茂水族館。荘内病院では、看護婦さんの受診手続きや窓口の説明に真剣に耳を傾けていました。一転して加茂水族館では、アシカやラッコのショーを見たり、近海の魚やクラゲの水槽の前で写真を撮ったり楽しい一時を過ごしました。この後、国際村で交流会が催され、今日一日の思い出話を花を咲かせました。

昨年末も国際村の行事にたくさんの



本物のサンタさんに会えて感激の涙
サンタと撮影会



国境を越える、歌と音楽
チャリティーコンサート



いっしょに踊ればすぐ友だちに
ボンジュール・ラフォア



タコヤキを作って食べて交流会。
管内施設見学会&交流会

和冬の行事特集

サンタと撮影会

十二月九日に行われたサンタさんと撮影会と映写会には、約百五十人の子供たちが集まり、大きなクリスマスツリーの下でサンタクロースと一緒に写真を撮りました。中にはサンタさんを目の前にして泣き出す子供もいましたが、サンタさんにキヤンディーのプレゼントを手渡されるとニッコリ笑って写真を撮っていくという微笑ましい場面もありました。今回サンタさんに扮してくれたのは、鶴岡市ALIT、ジェラード・テレルさん。ジェラードさんは、子供達の夢を壊さないようにと、最後まで笑顔でサンタさんを演じてくれました。写真を撮り終えた子供達は、サンタさんからのプレゼントを片手に、家族の人と一緒にクリスマスアニメ上映会に足を運んでいきました。



チャリティーコンサート

世界の被災地支援のために発

ハープでリース作り

十二月十六日、ハープで作るクリスマスリース講習会が国際村で行われました。講師は、立川町にあるハープ研究所「スパール」の上林子さん。ハープの効用などのお話を伺い、素敵な香りに包まれながらサンキラスを土台に、ハープを思い思いに飾っていきました。参加者は、今回が初体験という人が多かったのですが、手慣れた作業で各自個性的ですばらしいクリスマスリースが出来上がりました。



行事案内

人達が楽しく参加してくれました。

1/28 中国のお正月



期日 1月28日(日)
場所 国際村ホール
内容 中国のテレビ番組放映、映画「ガジュマルの丘へ」上映や中国雑技などで中国のお正月を楽しみます。当日は入場無料。中国茶のサービスもあります。ぜひおいでください。

3/10 北方民族文化展

期日 3月10日(土)
場所 アマゾン民族館内テーマ展示室
内容 2001年の企画展示は「北方民族文化展」として3月10日にオープンします。エスキモー、サーミ、ナナイ、アイヌなどの民族資料約300点が展示される予定です。ぜひご来館ください。

2/10 アマゾン子供フェスティバル

期日 2月10日(土)
場所 アマゾン民族館
内容 一年間開催されてきた南太平洋展もまもなく終了。ニューカレドニアを中心としたイベントを行う予定です。当日は小中学生無料となります。

2/5 ハローワールド

期日 2月5日(月)
場所 国際村ホール
内容 難民への援助活動を行っている桑山紀彦氏をお迎えし、映像をスクリーンに映し出し、同時にライブで音楽をお届けします。

庄内在住の外国人の方を紹介します



ダニエル カウエさん

子供のころに私の日本語勉強が始まりました。つまり、簡単な、日本語で数の数え方や「はい」と「いいえ」などを覚えたからです。その時、日本語で話せるわけなかったですが、日本語の面白さが頭に入りました。次に、日本語を勉強した時は、高校二年生の時でした。それから、大学を卒業するまで、ずっと日本語を勉強していましたが、おととしの夏にこの庄内に来るまで、日本を訪ねたことが一度もありませんでした。

「私達は英語を中学生の時から六年間勉強しましたが、あまり話せないですよ」と言われます。考えたら、僕の日本語勉強は自分の意志と興味があったので、一生懸命やりました。やっぱり、勉強はさせられるというより、興味を持って、自由にやる勉強は大事だと思います。自分の小学校の日本語勉強を思い出すと、自分のペースで簡単な日常のことから学習してきました。そして、子供のころから、外国語勉強を始めれば、上手になること以上に、興味を深く持つことが出来ると思います。出羽国際村と余目各小学校で子供たちに英語を教えています。その授業のなかでも、簡単に楽しく学べる英語を教えたいと思います。



外国語勉強は
興味を持って
自由にやる
ことが大事だ
と思います。

今、余目町に住んで、英語を

冬の
外国語講座

いよいよ二十一世紀。国際村の外国語講座も新学期がスタートします。興味のあるクラスでは体験受講もできます。外国語を学んで世界をさらに広げてみませんか。

英語 講師 フィリップ ロバーソン

キッズ英会話
小1~小3
講師：ダニエルカウエ
(余目町教育委員会A17)
毎週金曜日 17時~18時
小4~小6
毎週金曜日(毎月第一金曜を除く)
17時~18時
ティーンズ英会話
中1~高3
毎週火曜日
19時~20時15分
初心者旅行英会話
毎週金曜日(毎月第一金曜を除く)
19時~20時15分
やさしい中級英会話
毎週火曜日
14時~15時15分
かんぱーしょん喫茶店
毎週金曜日
14時~15時30分

フランス語 講師 チャール カザバン

開催曜日がこれまでの火曜日から水曜日に変更になりました。先生はカナダ・ケベック州の出身。カナダの歴史的なお話も聞くことができます。

毎週水曜日
19時~20時30分

ハンガール 講師 板垣 玉美

板垣先生からは、これまでのハンガール講座のほか今期から中国語講座も担当していただいております。日本に一番近い国、韓国の言葉を習ってみませんか?

毎週金曜日
19時~20時30分

中国語 講師 板垣 玉美

はじめての中国語
学生・一般

毎週土曜日
10時~11時30分
初級コース
毎週木曜日
19時~20時30分
中級コース
毎週水曜日
19時~20時30分
会話教室
毎週土曜日
14時~15時30分

インドネシアといえば、これでしょう！

材 料

ナシゴレン (インドネシアチャーハン)
 米5合、油適量、ニンニク4かけ、バランメラ (赤いニンニク) 3個、インドネシアケチャップ大さじ2、コショウ適量、チリソース大さじ1、チリペッパー小さじ1、トウガラシソース適量
 ウィダンチャイ (ショウガのお茶)
 ショウガ1袋、水2、黒砂糖適量、上白糖小さじ4、塩少々

作り方

ナシゴレン
 フライパンに油を入れ、おろしたニンニクコショウを入れて炒める。
 にチリソース大さじ1、チリペッパー小さじ1を加える。さらにインドネシアケチャップ大さじ2、冷やご飯を入れて混ぜながら炒める。
 スライスしたバランメラを油で揚げたものを に加える。トウガラシソースを入れて味を整えたらできあがり！
ウィダンチャイ
 鍋にお湯をわかし、黒砂糖を入れる。
 ショウガを皮ごと厚切りにし、火であぶってから棒でたたく。
 を鍋に入れ、塩、上白糖を加え、ふたをしてしばらく煮詰めたら完成！
 これさえ飲めば、風邪知らず!!

ワールドクッキング インドネシア編



講師
 ワテイさん(左)
 アテイさん(右)

今回紹介するインドネシアは1万7千もの島々からなっており、バリ島、ジャワ島、スマトラ島など、旅と食、楽しみの尽きない国です。

栄養のバランスも最高なのよ！



「おいしいー!!」
 インドネシア料理を一言であらわすとこんな感じ。
 参加者の間から「もつと辛くしていいよー、本場インドネシアの辛さを体験したい!!」という声が調理室いっぱいひびいて、チリソースを少し、もう少し。大丈夫なのだろうか?と心配でしたが、完成してみると、これがどうしてなかなかの美味。
 みなさんもご家庭でチャレンジしてみてくださいね。

フレンドシップサロン

フレンドシップサロンは、毎月第一金曜日に主に外国人のゲストを囲んで、外国のことを気軽に学べる交流の場です。



イギリスの本や貨幣を見ながら皆さん質問がつきません

十月のフレンドシップサロンは、リクエストをいただいたイギリスがテーマ。当日はゲストスピーカーの遊佐町のALT、ジェームス スチュワートさんから四名と参加者七名が意見を頻りに交わし合う、和気あいあいとした会になりました。
 主にジェームスさんから、基本的なイギリスの風習や文化を分かりやすく説明していただき、他のゲストスピーカー三名の方々は、説明を付け加えたり、イギリスの地図や貨幣を参加者の方々の席を回って見せてくれました。イギリスの経済、料理、教育制度、方言、祝日と様々な分野を、ゲストの方々が分かりやすく丁寧に、かつ興味深く話してくるので、話は尽きることなく、会は一時間延長した十時まで続きました。

国際交流団体紹介

～ 庄内に広がる国際交流 ～

国際ソロプチミスト鶴岡

いたわりと誠実の心を21世紀へ

“ Consideration and sincerity in the 21st century ”

会員数：現在23名
定例会：毎月第4木曜日
会費：年70,000円
連絡先：“国際ソロプチミスト鶴岡”
会長 齋藤 次子さん
(☎0235-22-0547) まで

国際ソロプチミストの奉仕と友情、人類愛、国土愛の趣旨に賛同し鶴岡クラブは設立されました。

障害者・老人福祉、青少年の健全育成、環境問題など現在の日本の抱えている問題、ユネスコ世界寺子屋運動、UNHCR日本への協力、地域社会の奉仕活動への協力、私費留学生への奨学金援助など国際ソロプチミストの精神に則て活動しております。

実業界で活動する女性、専門職を持つ女性によって構成しております。研修会、大会は国内は勿論、国際レベルのステージが用意されております。地域社会に於いてチャリティ事業に協力していただいておりますが、その収益金は全額地域社会に奉仕しております。



平成十二年
神戸・鶴岡子ども交流会

活字から学ぶ異文化から 体験から学ぶ異文化へ

ジュニア民間大使OB会

タオライの会

会員数：現在230名
定例会：必要に応じて
会費：必要に応じて
連絡先：“タオライの会”
会長 山口 吉彦さん
(☎0235-53-3411) まで

庄内の中高生を中心に12年前からタイにある「子供の村学園」に民間大使として派遣してきた。学園は、貧困家庭の子や家庭崩壊などで感情的障害をもった児童のための学校で親がわりの先生達と一緒に生活している。

現在まで延べ284名の参加者があり、12年前からそのOBで会を構成している。

主な活動内容としては、ジュニア民間大使の活動をバックアップし、夏物衣類や文房具・楽器等を収集し、現地の学校や福祉施設に届けている。

13年目の今年は、タイからカリブ諸国のドミニカ共和国へ国を移し、21世紀の国際交流事業にふさわしいグローバルな内容として企画しており、是非皆さんの参加と協力を期待しております。待ってます。



鶴岡のジュニア大使とタイ子供の村学園の子供達との交流

お知らせ

今回、国際村入り口に掲示板を設置しました。不要になった物を譲ったり、何かお得な情報を搜したり...。皆さん、ご利用下さい。

お問い合わせは出羽庄内国際村
☎0235-25-3600へ

あとかき

新年を迎え、国際村では「日本のお正月」や「中国のお正月」と、お正月イベントが続いています。今年も、このようなイベントに限らず、多くの皆様

に何かを感じとっていただけるような事業を行っていきますので、ぜひご参加ください。

また、国際村を使ったいろいろな活動やイベント企画を大いに歓迎いたします。多様に展開して行くものと思えます。もっともっとご活用ください。